

＜先週の指標の動き＞

指標名	数値	コメント
5月景気動向指数 (速報、7/6) CI 先行指数 一致指数 遅行指数	98.7 前月差▲0.1ポイント 101.2 前月差▲3.0ポイント 83.6 前月差+0.7ポイント	5月の先行指数、一致指数はともに低下（先行指数は2ヵ月連続、一致指数は09年3月以来15ヵ月ぶり）。輸出の増勢鈍化や政策効果の一巡を背景に生産関連指標などが悪化。 項目別にみると、先行指数では、耐久消費財出荷や生産財・最終需要財在庫率が悪化。株価下落など市場関連指標もマイナスに寄与。一致指数では、投資財出荷や商業販売額（小売・卸売）などがマイナス寄与に。
6月景気ウォッチャー調査 (7/8) 現状判断DI 先行き判断DI	47.5 前月差▲0.2ポイント 48.3 前月差▲0.4ポイント	6月の現状判断DIは、2ヵ月連続で低下。雇用関連DIが上昇に転じたものの、企業動向関連DIのマイナスが全体を押下げ。 項目別にみると、①家計動向は46.2となり、前月から横ばい。家電エコポイント対象商品の変更を控えた駆け込み需要（3月）の反動減がみられ、政策効果には一巡感。②企業動向は47.3となり、前月差▲1.8ポイント。製造業での大幅な低下が主因。受注量や販売量の伸びの鈍化が一部でみられることや販売価格の引き下げ圧力の強まりが背景。他方、③雇用は56.3と、同+1.5ポイント。一部で新規求人が増加したことなどが要因。 なお、先行き判断DIも、2ヵ月連続で低下。9月末でエコカー購入補助金・減税制度が終了することへの懸念などもあり、家計動向が低下。
5月機械受注 (7/8) 民需（船舶・電力を除く） 製造業 非製造業（船舶・電力を除く）	前月比▲9.1% （前年比+4.3%） 前月比▲13.5% （前年比+9.3%） 前月比▲6.0% （前年比+1.5%）	5月の機械受注（船舶・電力を除く民需）は、3ヵ月ぶりのマイナス。設備投資低迷の長期化を示唆。 業種別にみると、製造業は2ヵ月連続のマイナス。鉄鋼（+7.9%）、自動車・同付属製品（+3.7%）が増加したものの、4ヵ月連続マイナスとなった化学（▲15.6%）や、前月の反動をうけた石油製品・石炭製品（▲81.1%）などが減少に寄与。 非製造業は、4ヵ月ぶりのマイナス。運輸業（▲34.2%）、不動産業（▲46.0%）などが減少に寄与。 なお内閣府は、機械受注の判断を「持ち直しの動きがみられる」に据え置き。
5月国際収支 (速報、7/8) 経常収支（原数値） 貿易収支 サービス収支 所得収支 経常移転収支	+12,053億円 前年比▲8.1% +3,910億円 ▲438億円 +9,287億円 ▲707億円	5月の経常収支は、16ヵ月連続の黒字だったものの、黒字幅は前年比で10ヵ月ぶりに縮小。貿易収支の黒字幅が縮小したことが主因。 貿易収支の黒字幅縮小は12ヵ月ぶり。輸出の増勢鈍化が続いた一方、資源価格上昇などにより輸入の増勢が加速したため。また、所得収支においても、黒字幅が11ヵ月連続の前年水準割れ。欧米景気の低迷や円高により配当収益など直接投資収入が減少したことが大きな要因。

6月貸出資金吸収動向等 貸出残高(平残) 銀行・信金計 銀行計	(速報、7/8)	前年比▲2.0% 前年比▲2.1%	6月の銀行・信金計貸出残高(平残)は、7ヵ月連続のマイナス。金融危機に伴う市場マヒの影響から、前年同月に増加していた反動。また、企業の資金需要も依然として低調。
6月マネーストック M2(平残) M3(平残) 広義流動性(平残)	(速報、7/8)	前年比+2.9% 前年比+2.2% 前年比+1.6%	6月のM3は、前月から伸び率が▲0.1%ポイント縮小。内訳をみると、企業の手元流動性の確保や個人の安全運用志向を背景に、定期預金などの準通貨(+1.6%)やCD(譲渡性預金、+23.4%)の増加が持続。 広義流動性は15ヵ月連続のプラス。内訳をみると、欧州の財政不安などを背景に外債(▲3.0%)が8ヵ月ぶりのマイナスとなったものの、引き続きM3や金銭の信託(+1.6%)が増加に寄与。

<国内景気の現状判断と当面の見通し>

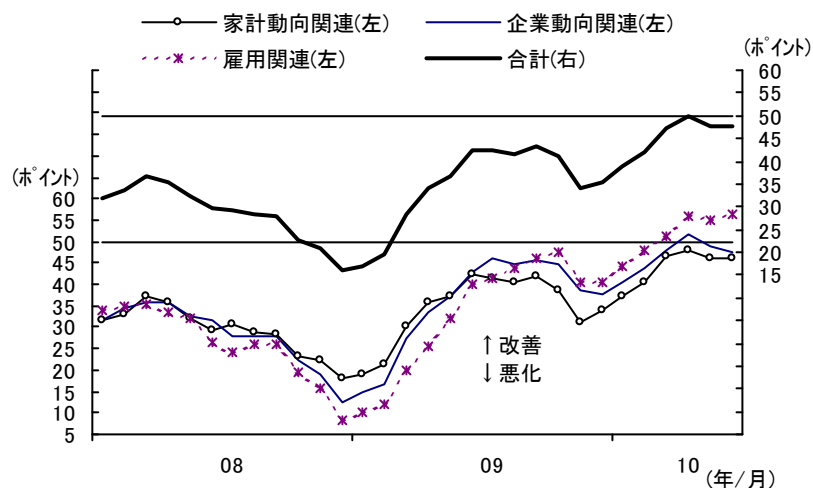
<p>(1) 国内景気の現状判断</p> <p>昨春以降、輸出の回復や政策効果の発現を主因に、緩やかな景気持ち直しの動きが続いてきたが、足元で回復ペースは鈍化傾向。</p> <p>(2) 当面の見通し</p> <p>輸出の拡大に支えられて景気回復が持続。もっとも、①内需低迷が長期化すること、②これまでの景気持ち直しの主因である景気対策効果が剥落していくこと、から回復ペースは緩やか。民主党政権による所得拡大策の効果から個人消費が消費下支えに作用するものの、総じて低成長にとどまる見通し。</p>
--

<当面の国内主要経済指標等のスケジュール>

月日	指標名等	発表機関
7/12(月)	6月 企業物価指数	日本銀行
7/13(火)	6月 消費動向調査 5月 鉱工業生産(確報)	内閣府 経済産業省
7/14(水)	金融政策決定会合(～15日)	日本銀行
7/16(金)	5月 第3次産業活動指数 7月 金融経済月報	経済産業省 日本銀行

<図表で見る経済指標>

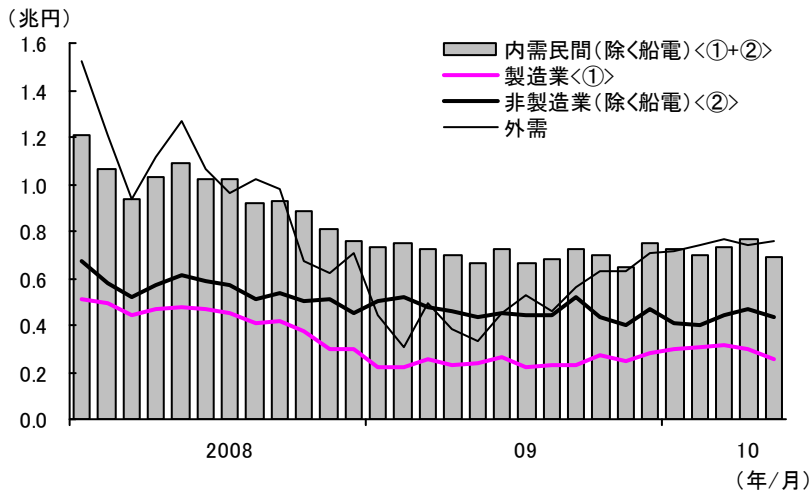
(図表1) 景気の現状判断DIの推移



(資料) 内閣府

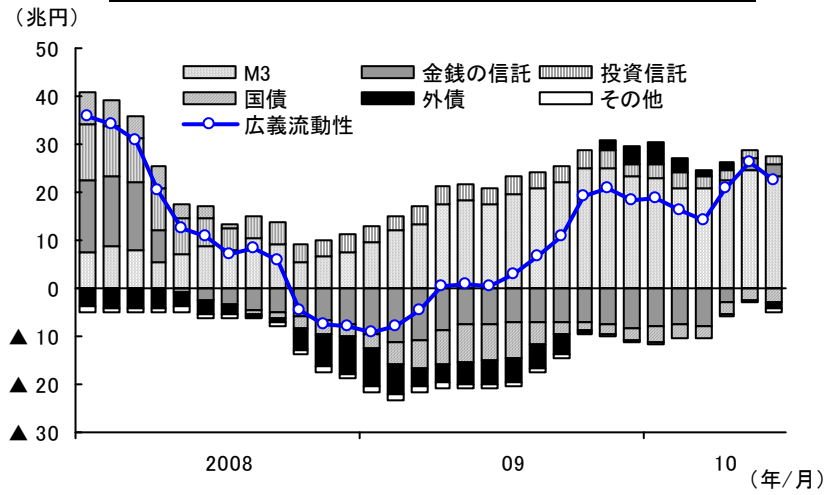
(注) 「現状判断DI」は、3ヵ月前対比でみた景気の方角感に関するアンケート調査結果を指数化。50が「横ばい」を示す。

(図表2) 機械受注の国内・海外需要の推移(実額、季節調整値)



(資料) 日本銀行

(図表3) 項目別マネーストック(広義流動性)の推移(前年差)



(資料) 日本銀行